

6月は梅雨の季節

大雨に備えましょう！



防災情報

防災対策課

☎0738・23・5528

梅雨の季節を迎えました。昨年の「令和2年7月豪雨」では九州地方を中心に甚大な被害をもたらし、本市においても日高川氾濫注意情報が発令されました。

大雨が降ると、河川の氾濫や、がけ崩れが起きたりします。まずは、市内で起こる可能性があることを知り、災害発生時に適切な行動がとれるよう準備をしましょう。

ハザードマップで危険な場所を

チェックしましょう！

災害は、いつ自分の周りで発生するかわからないということを改めて認識し、皆さん自身が災害の被害者とならないよう、「自らの命は自らが守る！」という気持ちで、日頃から災害に対する備えを行うことが大切です。今回は「洪



水・土砂災害ハザードマップ」を用いた準備を紹介しま

す。洪水・土砂災害ハザードマップは、日高川水系日高川および西川、江川が想定最大規模降雨（おおむね千年に一度の大雨）により氾濫した場合に想定される洪水浸水想定区域と、土砂災害が発生した場合に住民の命または身体に危害が生じるおそれのある区域を表す土砂災害警戒区域を併せて示したものです。

このハザードマップで、洪水時に浸水する区域や深さ、

また土砂災害の危険がある場所をチェックし、自宅から避難場所までの経路や家族の連絡先などについても確認しましょう。

洪水・土砂災害ハザードマップは令和2年9月号の広報ごぼうと一緒に配りしたものです。紛失などでお手元がない方は、市役所の情報発信コーナーのパンフレットラックのほか、防災対策課と都市建設課で配布しています。また、市のホームページからもご覧いただけますので、ご確認ください。

ただし、ハザードマップはあくまで想定図です。雨の降り方や土地の状態によって、地図に示された区域以外でも洪水や土砂災害が発生することもありますので、十分注意してください。

雨の降り方とその先の危険性

「猛烈な雨」や「非常に激しい雨」といった表現をよく天気予報で耳にすると、思いますが、しかし、具体的に雨の降り方をイメージできる方は少ないと思います。予報用語で

との1時間雨量とその時に起こりやすい災害の危険性を下の一覧表にまとめました。

その違和感、土砂災害の前ぶれかも…

長時間雨が降り続いたときに、がけからの水が濁って噴き出していたり、不審な音がしたり、川が濁っていたりするなど、普段と様子が違い、違和感を覚えることがあると思います。このような状況は土砂災害発生危険性があります。普段とは違うことに気づいたら、直ちに安全な場所に避難してください。

大雨避難の心得!!

大雨から身を守るために…

- ①スムーズに避難できるよう、事前に家族と話しあい、避難経路の確認、水・食料や生活必需品などを備蓄しておく。
- ②大雨の情報を入手する。
防災行政無線、テレビ、ラジオ、緊急速報メールなどにより、情報を入手する。
- ③余裕をもって安全な場所に逃げる。逃げ遅れた場合は2階以上、または危険のない近くの高い場所に避難する。
- ④避難とは、「難」を「避ける」こと。自宅が安全な場所にある場合は、待機し、不安であれば、安全な場所にある親戚宅や知人宅等または避難所へ避難する。
- ⑤避難時は、動きやすい服装で、隣近所の方に呼びかけ、2人以上で避難する。
- ⑥「自らの命は自らが守る！」意識をもって、適切な避難行動をとる。

予報用語	1時間雨量(mm)	雨の振り方	災害の危険性
やや強い雨	10～20未満	ザーザー降る	この程度の雨でも長く続くときは注意が必要
強い雨	20～30未満	どしゃ降り	側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが起きる
激しい雨	30～50未満	バケツをひっくり返したように降る	がけ崩れが起きやすくなり、危険地域では避難の準備が必要
非常に激しい雨	50～80未満	滝のように降る	マンホールから水が噴き出し、地下街に雨水が流れ込む
猛烈な雨	80以上	息苦しくなるような圧迫感がある	雨による大規模災害が発生する可能性が高い